



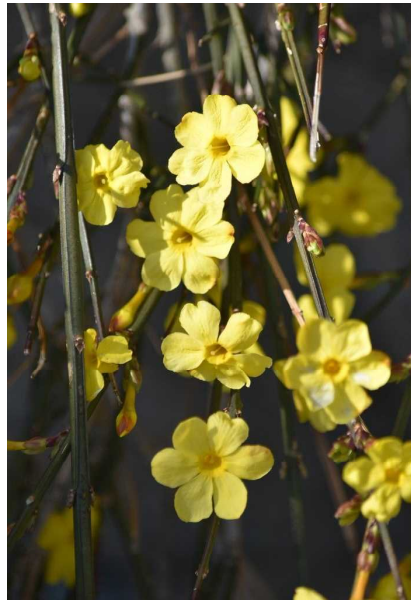
2



February

俳句

(2024)



目次

た べ も の 俳 句	モ ー ロ ク 俳 句	歳 時 記 俳 句
7 ↳	4 ↳	1 ↳

立春（りっしゅん）、旧暦＝1月 節
立春二十四節気の最初の節。この日から春。八十八夜、二百十日は立春が起点。

（宇佐美保幸）メール・yasuyuki.usami@gmail.com

毎日の俳句は次のブログに
巣鴨とげぬき徒然俳句
<https://blog-haiku.777usami.com>

二月はや庭の鉢植え微動する
知らぬ間に芽生え花咲く二月かな
まだ二月蒲公英つぼみまだ固く

待春やだんだん大きく鯉の口
春待つや多病ありしも相そいて
流氷の海はひたすら春を待つ
処方箋待つことなれて春を待つ

春が来て男のピアス口に耳
いつか死ぬ春が来たれどいつか死ぬ
血圧も安定志向春が来て
春が来て血圧のこと忘れけり

春めくや東京の坂薄曇り
春浅しされど意地張る朝散歩

格差あり見向きもされず犬ふぐり



野にありてまつさらに咲く犬ふぐり

春初め人力車には外国人

春の雪パソコン震え我震え

バレンタインされど少子化賑わいし

思いあり後期高齢梅ひらく

梅ひらくスマホ連写でLINEする

人間に五欲ありけり紅梅も

白梅にLINE伝言祈りけり

春遅々と朝の目覚めに未練あり

瀬戸の波光キラリと春寒し

ぶつぶつとぶつぶつと春愁い

血圧が高し頭は冴返る

素直かな隠れ強情枝垂梅

雨水かななにはともあれ今日過ぎす



梅が咲く愛人いるか嫉妬する
庭の鉢手入れせずとも梅の花
梅園を歩きあの世の話など

片栗の花は次々花盛り
温暖化河津桜は咲き急ぐ

老梅の何処に命や花ひらく
老梅の花多きこと見習って

イヤフォンにシャンソン流れミモザ咲く
団地にもミモザが咲いて華やいで

目刺し焼きジャズを聴きつつカップ酒
梅散つてこの世の闇が復活す

春満月探して見れど臍ひとつ
二月尽閏年にて得をして



モーロク俳句

モーロクしずたずた背骨春を待つ
モーロクし昭和歌謡や春来よと
モーロクしされど夢があり春来たる

モーロクし期待喪失節分会

モーロクしされど弾みし春が来て
モーロクし死んでいるのか春が来て
モーロクし語らずぼーっと春の酒

モーロクしころに鞭を春兆す
モーロクし少し生きる鼓草

モーロクしリスクは高し冴返る
円周率忘れモーロク春寒し



モーロクし南無阿弥陀仏露の臺
モーロクし晚酌二合露の臺

モーロクし生きる気魄梅ひらく
モーロクしむかつくやばい梅三分
梅咲けどときめき足りずモーロクし
白梅も満開過ぎてモーロクす
梅林や思ひのままにモーロクす

モーロクしタイムスリップ猫柳
平凡に菜の花眺めモーロクす

犬ふぐり咲いてモーロク孤独増す
モーロクし無視され生きるいぬふぐり

やり替えができぬモーロク黄水仙
モーロクし柔らかな顔に木の芽時



椿咲く我はモロク椿咲く
モロクしテレビに疲れ蕨餅

モロクし見栄を承知で木瓜の花
モロクし逃げるすべ無し春の闇

モロクの行く先不明春の水
モロクし余寒厳しく朝寝する

モロクしこれも自虐か目刺食う
モロクし世間気になる春一番

モロクし無駄な医療費春の泥
梅散つてモロクどこか軽くなる
モロクし願いもむなし二月尽



たべもの俳句

朝がゆに緑を加え春兆す
めんつゆで簡単おひたしふきのとう
さわやかにみつばとツナのサラダかな

春待つやブラックコーヒー香り立て
春立つやたいめいけんのオムライス
牛すじの煮込みことこと寒明ける

ふわとろにフレンチトースト春が来て
朝食はフレンチトースト春隣

親不孝親あり子あり花菜飯
春菊のかき揚げ添える肉うどん
春菊をたっぷり添えて肉豆腐



しらす丼黄身を落としとしてかき混ぜて
コクうまし甘め煮汁でひじき煮る

菜の花にきくらげ加え中華あえ
バレンタインレトルトカレーで独り者
バレンタイン一人焼き肉賑わって

せりナムルほのかな苦み香りあり
パラパラにソース焼きめし春浅し

ふきのとうオリーブオイルで和え物に
ふきのとうイタリア風にオイル和え
フキノトウ苦みを生かすみそパスタ

シヤキシヤキのレタス丸々サラダかな
熱き茶に羊羹添えて余寒かな
余寒かなビーフシチューを煮込みけり
まだ二月熱々麻婆で夕ご飯



シヤキシヤキに水菜豚バラピリ辛煮
豚バラの旨辛せり鍋せり根ごと

春遅しコトコト朝から豚角煮
春遅々と今朝は豚まんほかほかを

パスタゆで釜揚げしらすたつぷりと
ほろ苦のタラの芽茹でて酢味噌かけ

納豆に七味の刺激二月尽



